

第 5 期県民生活審議会第 1 回フォローアップ委員会 議事要旨

- 1 日 時 平成 15 年 7 月 9 日 (水) 13:00 - 15:00
- 2 場 所 兵庫県公館 3F 第 2 会議室 (神戸市中央区)
- 3 参加者
- (1) 委員 加藤部会長、今崎委員、奥村委員、北野委員、村上委員、森委員、
門上委員、山下委員
- (2) 県側 大鳥県民文化局長、十倉生活創造課長ほか
- 4 内 容

(地域プランナーの役割としくみ)

- ・地域の中には既存の活動団体があり、それぞれ専門的に活躍している。地域プランナーにはそれらをうまくつないでいく役割が期待される。
- ・実際には地域プランナーは多様な役割を果たす。
- ・多様性を前提に、地域プランナーも画一的にどうする人ということではなく、地域の状況に応じた役割があっていい。
- ・神戸市の「まち育てサポーター」は、レベルが高いが、全県的に同じようにするのでもよくない。
- ・地域プランナーが予算取りをするくらいの役割を担うとよい。
- ・地域プランナーを地域が雇用するくらいになればいい。
- ・仕事をする以上はそれに見合った対価を払わないと仕事に対する責任もない。
- ・派遣することについてお金を出すより、何かをなしとげたことに対する成果主義でお金が出る方がよい。
- ・地域プランナーが役に立てて、誇り(プライド)を持てるようなシステムがあればよい。
- ・地域プランナーは、全てのオールマイティの専門家ではなく、何かの専門家であればよい。それならば、苦手な分野でもどこに相談すればいいかくらいのネットワークはある。

(中間支援組織と地域プランナー、地域リーダーの関係)

- ・中間支援組織と地域プランナーの役割は明確には分けられない。
- ・分野別ならライン部門、会計・税務ならスタッフ部門といったように、縦軸と横軸をうまくクロスさせられたらよい。
- ・専門職か、プロデューサーか、ディレクターか、地域プランナーどう見るのかは難しい。バックオフィスとして、ロジスティックな役割が期待されているという気もする。このあたりを交通整理するとイメージがはっきりする。
- ・リーダーがエンパワーメントすればプランナーになる。必ずしも明確に区別する必要はない。
- ・地域の古い人がやってきたことと新しい人の取り組みがうまく接続すればよい。

- ・講習に行ったプランナーだとふりかざして地域に入ってきて、それだけでは溶け込めない。
- ・地域のリーダーは孤独なもので、実際に活動している時はプランナーは必要である。

(リーダー養成講座との関係)

- ・リーダー養成講座を新たに設けるよりも、既存の事業をスクラップアンドビルドすべきである。
- ・高齢者がリタイヤしても、これまでと違う能力が要求される場合があるし、そのための講座は必要だと思うが、人によってその内容は違う。その話とプランナー、リーダーの話はどう整理したらよいのか考えるべきである。

(地域プランナーへのバックアップ)

- ・専門職には3種類ある 分野別(福祉、緑化等)、地域別、機能別(コンピューター、会計など)である。専門職をとりまとめていくコーディネーター役は並大抵のことではない。実際に活動しながら問題や悩みに直面し、試行錯誤するものであり、それをバックアップしていかなければならない。

(市町との関係)

- ・文化会館のことだけを書かずに、市町にも啓発していくことが重要である。
- ・県と市町は対等であるが、地域プランナーのイメージをはっきり打ち出すことができれば、影響を与えていくことはできる。

(わかりやすいまとめ方)

- ・難しいことを理論的に書いてもそれが実生活に必要なのか、現状では他の地域から学識者等を招いて助言を得ているが、そのこととどう違うのか、わかりやすく示すことが必要である。
- ・スーパーマンを求めるような書き方をすると、引いてしまう。個々の知識は持っていないくてもよい。
- ・一度どこかで無理矢理にでもつくってみたらどうか、それを動かしながら議論するのも面白いと思う。

(その他)

- ・地域プランナーにマネジメント能力は不要である。
- ・健康づくりのメインには体育協会を書くべきである。
- ・定年の人に皆兵制のように講座に入ってもらうことも考えられる。